

ゾンビ・ファン狂喜! 音楽の違いが“ゾンビ”を変えた!!

'78年の日本公開時には、ダリオ・アルジェントとジョージ・A・ロメロの共同監督作として宣伝された『ゾンビ』だが、実際には、ロメロの単独監督作品であることは、今では有名な話。当時、日本でロメロはまだ無名であり、彼の監督作ということでは不安だったということもあっての「改編」ながら、アルジェントは日本公開バージョンの基になったイタリア版の編集監修および、ゴブリンとの共同で音楽も手がけており、あながち「嘘」とは言えないものはある。今回の【完全版】と【イタリア版】の印象は全く異なり、まるで別の作品のようである。そのいちばんの要因は、音楽の違いだ。ロメロ監督の出世作で『ゾンビ』の前作に当たる『ナイト・オブ・ザ・リビング・デッド』と同様の50年代SFホラー映画風選曲がなされた【完全版】に対し、アップテンポのゴブリン・サウンドで迫る【イタリア版】。独自の編集も含めてSFサバイバル・アクション・ホラーの味付けがなされた【イタリア版】の支持者も多い。そして、10周年を迎えた東京国際ファンタスティック映画祭'94の記念企画として、『ゾンビ/ディレクターズカット完全版』とともに、『闇の帝王復活!』ゾンビ・オールナイトで上映される。題して『ゾンビ/ダリオ・アルジェント監修版』がそれだ!!

「ゾンビ」の真の姿を直視できるか?!

東京国際ファンタスティック映画祭プロデューサー 小松沢 陽一氏



最強のHORROR軍団が結集して生まれた、 映画史に残る残酷金字塔!!

監督・脚本◆ジョージ・A・ロメロ=『ナイト・オブ・ザ・リビング・デッド』『死霊のえじき』
共同脚本◆ダリオ・アルジェント=『サスペリア』『フェノミナ』『トラウマ/鮮血の叫び』

特殊メイク&スタント◆トム・サビーニ=『13日の金曜日』『死霊のえじき』

音楽◆ゴブリン=『サスペリア』『サスペリア2』

主演◆ケン・フォーリー=『フロム・ビヨンド』『悪魔のいけにえ3/レザーフェイス逆襲』

ゾンビ・プレミアムグッズ☆上映劇場にて世界独占限定販売!!
(豪華パンフレット、ワールドプレミア記念限定ポスター、Tシャツ、スタッフジャンバー)
これらの商品は劇場でお求めになれます。

10月8日(土)完全復活ロードショー

特別鑑賞券¥1,400発売中! (当日・一般¥1,800/学生¥1,500の処)

ゾンビングテレカ付チケット¥2,400 同時発売!!

歌舞伎町・コマ劇場広場前 03
新宿シネパトス (3209) 2131

連日 10:55 1:25 3:55 6:25

KING of PERFECT VERSION 極めつけの完全版 驚愕の登場！

日本初公開時には記録的な“不入り”の末に打ち切られたリック・ベッソン監督の『グレート・ブルー』。しかし、ビデオでの静かなブームを経て、約50分を追加した3時間にも及ぶ完全版=『グラン・ブルー／グレート・ブルー完全版』の凱旋公開は、大ヒットを記録した。これに続いて、やはり初公開時とは異なるバージョンで再公開された『ブレードランナー／ディレクターズカット最終版』もヒット。こうした初公開版よりも長いバージョンによる【完全版】では、『ベティ・ブルー』、『アビス』、『レイザーヘッド』、『バグダッド・カフェ』、さらにビデオ



のみのリリース作として、『エイリアン2』、『ターミネーター2』なども次々に登場した。そんな“完全版ブーム”といえる中で、ついに究極の完全版がやって来る！ 15年間、多くのファンの間で語り継がれてきた『ゾンビ／ディレクターズカット完全版』だ!!

手首切断、頭部粉碎、はらわたエグリ出し!! スーパー残酷映画が帰って来た！

1979年3月10日、1本のイタリア製ホラー映画が日本公開された。その映画のタイトルは、『ゾンビ』——大爆発を起こした惑星から発せられた光線の影響で突然、地球上の全ての死者が蘇り、生者の生肉をむさぼり喰う…。大パニックの世紀末で展開する生者 vs. 死者の凄まじきサバイバル戦！映画史上稀にみる



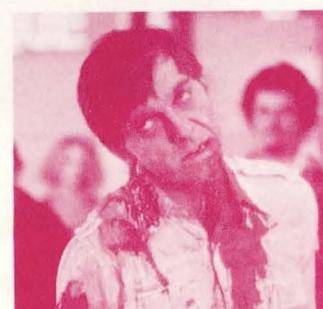
ショッキングな残酷描写で、この映画は当時の若い映画ファンに絶大な支持を受けた。イタリア、日本での大ヒットから遅れること1ヶ月、『ゾンビ』はアメリカでも公開され、一大センセーションを巻き起こし3週連続1位の座を独占。その残酷描写の過激さは、アメリカ国内で社会問題にもなり、公開後のケーブルTVでの放映時には局に放送中止を求める声が殺到。結局、まともな形での放送は、わずか1回のみであった。さらには、次々と世界中で公開された際にも同じ様な社会現象を巻き起こしている。まさに、本作の強烈さを物語っているといえよう…。そして今、日本公開より15年を経て、その“史上最大の衝撃作”が何とパワーアップして帰って来てしまった!!

1本の作品で様々なバージョンが存在— そして、ついに全貌が明らかになる！

世界中で大ヒットを記録した『ゾンビ』は、その後に訪れるホラー映画ブームを牽引する役割も果たし、その人気はやがて“カルト化”。ホラー映画の中に“ゾンビ映画”というジャンルを確立した。

カルト映画と化した『ゾンビ』は、ビデオ時代の到来による海外情報の氾濫で、いくつかのバージョンの存在も熱心なマニアの間で噂される。まず、'79年の日本公開版は、実はイタリアで再編集されたものを、さらに日本独自の編集（ほとんどが過激すぎる残酷シーンのカット及び修正）を若干えたものといわれ、上映時間はイタリア公開版の1時間59分に対して、4分短い1時間55分。

'85年にCICビクターより発売されたビデオ版（現在廃盤）は、この時の日本公開版とは異なるバージョンで、アメリカ公開版と同一のもの。ランニングタイム=2時間7分で、音楽もイタリア版に使われたイタリアン・ロ



ックグループ、ゴブリンによるものとは異なる音楽（ただし、一部の場面にゴブリンのBGMをそのまま残している箇所あり）が使われている。そして、かねてよりファンの間で“噂”として伝わっていた、よりハードな描写と深いドラマ性を持った幻の『ゾンビ／ディレクターズカット完全版』が、初公開から15年の歳月を経てついに全貌を現す運びとなった。今回初公開されるバージョンの上映時間は初公開版よりも実に24分長い2時間19分！ 正真正銘の【完全版】である。これは全米でも公開・ビデオ化の予定のない文字通りの“世界初公開”であり、これが、ジョージ・A・ロメロ監督が本来意図していた『ゾンビ』の真の姿なのだ。そして、その衝撃的映像は、15年を経たいまでも全く色あせることなく、未公開シーンの追加によって、強烈な残酷描写の前に埋もれがちだった、作品本来のテーマが、より明確に打ち出されている。